



Press Release

2025 年 9 月 30 日

タレンツ・トーキョー実行委員会

カンヌやヴェネツィアなどの国際映画祭でも注目されるアジアの映画人を多数輩出
映像分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2025」参加者・メイン講師決定
世界で活躍が期待される企画を選抜する
「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」採択者を発表
「タレンツ・トーキョー2025」プレイベント・修了生作品特別上映会開催概要を発表

タレンツ・トーキョー実行委員会は、映像分野における東京からの文化の創造・発信を強化するため、「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「才能(=Talents、タレンツ)」を育成することを目的とした「タレンツ・トーキョー」を、東京都および公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京との共催で 2010 年から毎年秋に実施しています。アジアの若手映画作家やプロデューサーを東京に招き、7 日間にわたるワークショップを通じて、世界で活躍していくためのノウハウを学ぶ人材育成事業です。また、本事業は「ベルリン国際映画祭」の一環として開催されている「ベルリナーレ・タレンツ」の海外展開における唯一のアジア版として実施するもので、カンヌやヴェネツィアなどの国際映画祭で受賞する修了生も多く、世界的に活躍する映画人を多数輩出しています。

16 回目となる「タレンツ・トーキョー2025」は、『心を開く、その強さ』というテーマのもと、11 月 24 日(月・振休)～11 月 30 日(日)の日程で行います。

この度、選考の結果、17 名の参加者(タレンツ)が決定しました。メイン講師には、映画監督のモーリー・スリヤ氏、プロデューサーのジャスティン・オー氏、ワールド・セールス担当講師としてエマニュエル・ピザーラ氏、ベルリナーレ・タレンツからトビアス・パウジンガー氏など世界で活躍するプロフェッショナル 4 名を迎えます。

また、本事業の修了生を対象とし、今後世界での活躍が期待される企画を選抜しサポートする「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」の対象企画も決定しましたので、あわせてお知らせします。

「タレンツ・トーキョー2025」に先立ち、今年度新たにプレイベントとして、タレンツ修了生作品の特別上映会を 11 月 8 日(土)および 9 日(日)に、東京都写真美術館ホールにて開催します。上映作品は、『ルノワール』(2025)早川千絵監督(TT2014 修了生)、『Cu Li Never Cries』(2024)ファム・ゴック・ラン監督(PHẠM Ngọc Lân、TT2017 修了生)、『ピアス 刺心』(2024)ネリシア・ロウ監督(Nelicia LOW、TT2020 修了生)の 3 本で、上映後の監督トークも予定されています。11 月 8 日の『ルノワール』上映後には、作品監督の早川監督と、特別ゲストとして是枝裕和監督による対談トークも予定されています。

※詳細については、別紙 1～4 をご参照ください。

(本事業は、2010 年は「ネクスト・マスタース・トーキョー」、2011 年から 2013 年は「タレント・キャンパス・トーキョー」、2014 年より「タレンツ・トーキョー」の名称で実施しています。)

「タレンツ・トーキョー2025」開催概要

名称：「タレンツ・トーキョー2025」 (Talents Tokyo 2025)

会期： 2025 年 11 月 24 日 (月・振休) ～ 30 日 (日)

会場： 有楽町朝日スクエア (東京都千代田区有楽町 2-5-1 有楽町マリオン 11F)

主催： 東京都

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

タレンツ・トーキョー実行委員会

提携： ベルリン国際映画祭 (ベルリナーレ・タレンツ)

協力： ゲーテ・インスティトゥート

公式ウェブサイト：<https://talents-tokyo.jp>

＜本事業の掲載に関するお問い合わせ＞

タレンツ・トーキョー実行委員会事務局 担当：松本、曹

E-mail：talents@talents-tokyo.jp

別紙1 「タレンツ・トーキョー2025」メイン講師（エキスパート）



(左から、モーリー・スリヤ氏、ジャスティン・オー氏、エマニュエル・ピザーラ氏、トビアス・パウジンガー氏)

モーリー・スリヤ (Mouly Surya・映画監督)

1980 年ジャカルタ生まれ。インドネシアを代表する映画監督の一人であり、全米監督協会のメンバーでもある。長編デビュー作『FICTION』（2007）でインドネシアのシトラ賞最優秀監督賞を受賞し、翌年には釜山国際映画祭でも上映された。2013 年の第二作『WHAT THEY DON'T TALK ABOUT WHEN THEY TALK ABOUT LOVE』は、サンダンス映画祭ワールドシネマ部門に正式出品。第三作『MARLINA THE MURDERER IN FOUR ACTS』（2017）はカンヌ国際映画祭・監督週間にてプレミア上映された。2023 年には東京国際映画祭より黒澤明賞を受賞。初の北米作品となる Netflix 映画『TRIGGER WARNING』（主演：ジェシカ・アルバ）は 2024 年に配信された。最新作『PERANG KOTA (THIS CITY IS A BATTLEFIELD)』（2025）は、ロッテルダム国際映画祭のクロージング作品としてプレミア上映が行われた。

ジャスティン・オー (Justine O.・プロデューサー)

台湾出身の映画プロデューサー。イギリスのアバディーン大学にて国際保健マネジメントの MBA を取得。その後、アフリカのマラウイやアメリカのテキサスにて緩和ケア精神医学を専門に、医療分野でキャリアをスタートさせた。

2008 年より北京で映画業界に携わり、2014 年から 2020 年までは中国の制作会社 Xstream Pictures にてジャ・ジャンクー監督のアシスタントを務めた。2017 年には平遥国際映画祭の立ち上げと運営に携わるなど、多岐にわたる経験を積む。13 年にわたり著名監督のもとで活動した後は、若手監督の作品やドキュメンタリー作品を中心にプロデュースを手がけている。2021 年以降は、ブラジル、アルゼンチン、アルジェリア、カンボジア、ネパール、日本、フランス、ドイツ、中国など、多様な地域で国際共同製作に取り組んでいる。

エマニュエル・ピザーラ (Emmanuel PISARRA・ワールド・セールス)

mk2 Films の買付部門責任者。mk2 は、パリを拠点とし、『落下の解剖学』(2023)、『わたしは最悪。』(2021)、『燃ゆる女の肖像』(2019) など、国際的に高く評価された作品を製作・配給している。

これまで、国際セールスおよび買付分野で 10 年以上の経験を持ち、Kinology や Doc & Film International にてシニアポジションを歴任。レオス・カラックス、ミア・ハンセン＝ラヴ、ジャンフランコ・ロージ、シャンタル・アケルマンといった監督作品の世界配給を担当した。

2021 年から 2024 年までは、ユニフランスの東京オフィス責任者として、日本、韓国、東南アジア、インドにおける活動を統括。横浜フランス映画祭のディレクションを 3 回にわたり行った。

トビアス・パウジンガー (Tobias PAUSINGER・ベルリナーレ・タレンツ)

2024 年 10 月よりベルリナーレ・タレンツのプログラム・マネージャーを務める。企画開発、製作、買付、配給、映画振興政策、教育、映画助成、さらに業界イベントやフィルムマーケットのキュレーションなど、映画業界の多岐にわたる領域で活躍。

Bavaria Film International でワールドセールスに従事。その後、The Match Factory で、数々の国際的に成功を収めた作品を世界配給向けに買付した。2011 年には、アート系映画とビジュアルアーツの交流を促進するプロジェクト「Art:Film」を設立。2017 年から 2019 年までは、ドイツ連邦政府文化メディア庁 (BKM) にて国際映画関連および映画産業のアドバイザーを務め、欧州評議会の Eurimages 基金において、ドイツ代表を担った。その後 The Match Factory に復帰し、アキュイジション&開発部門の責任者を歴任。The Match Factory では、イエシム・ウスタオール監督の『パンドラの箱』、コーネル・ムンドルッツォ監督の『エボリューション』、ブラザーズ・クエイ監督の『砂時計サナトリウム』などの共同製作に携わったほか、ベン・ファン・ローネと共に企画したシリーズ『The Report』を開発し、2022 年の Co-Pro Series ピッチングで高い評価を得た。また、国際映画祭の戦略および内容に関するコンサルタントを務め、脚本開発、資金調達、配給に関して映画作家への助言も行っている。教育者としても活躍し、バーデン＝ヴュルテンベルク映画アカデミーやローマの NABA など名門映画学校で指導にあたっている。コミュニケーション&リーダーシップ分野の MBA のほか、オーディオビジュアル・マネジメントおよび映画製作の学位を持つ。2014 年よりヨーロッパ映画アカデミー会員。

別紙2 「タレンツ・トーキョー2025」参加者（タレンツ）

監督：

CHEN Jianhang（中国）
GUAN Tian（中国）
Sean Ali WANG（中国）
ZHENG LU Xinyuan（中国）
Anastasia TSANG（香港）
Makbul Mubarak（インドネシア）
Rein Maychaelson（インドネシア）
Sushi KUWAYAMA（日本）
TAN Ce Ding（マレーシア）
Glenn BARIT（フィリピン）
Sam MANACSA（フィリピン）
Ash GOH Hua（シンガポール）
NGUYỄN Lương Hằng（ベトナム）

プロデューサー：

LUNG Kwok Yiu（香港）
SATOHI Naomi（日本）
Jed MEDRANO（フィリピン）
Evril Pinyu KUO（台湾）

- * タレンツ名は国名／地域名のアルファベット順で表示しています。
- * 国名／地域名は出身国もしくは現在の活動拠点です。
- * 2025年9月30日時点の情報であり、変更になる可能性があります。

選考委員会は、池田高明（NHK エンタープライズ）、市山尚三（タレンツ・トーキョー実行委員長/東京フィルメックス理事長）、神谷直希（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックスプログラムディレクター）により構成されています。

一次選考には、今井太郎（プロデューサー、TT2018 修了生）、水野詠子（プロデューサー、TT2019 修了生）、深津純子（ライター/東京フィルメックス理事）、市山尚三（タレンツ・トーキョー実行委員長/東京フィルメックス理事長）、神谷直希（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックスプログラムディレクター）、松本元子（タレンツ・トーキョー）が参加しました。

（順不同、敬称略）



別紙3 ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム選抜企画

A) 企画開発ファンド

※映画企画の実現のため、上限 150 万円の支援を行うプログラム

Alyx Ayn ARUMPAC (監督、TT2015、フィリピン) 『Tongues of Fire』
PUREVDASH Zoljargal (監督、TT2017、モンゴル) 『SANE MOTHER』
Amanda Nell EU (監督、TT2018、マレーシア) 『Lotus Feet』
Carlo Francisco MANATAD (監督、TT2018、フィリピン) 『A Brilliant Melody』
IMAI Taro (プロデューサー、TT2018、日本) 『Staring at Your Back』
Nelicia LOW (監督、TT2020、シンガポール) 『Mu』
Sai Naw Kham (監督、TT2023、ミャンマー) 『Mangoes are tasty there』
CHAN Tze-woon (監督、TT2024、香港) 『Chronicle in the Darkness』
Danech SAN (監督、TT2024、カンボジア) 『To Leave, To Stay』
François CHANG (監督、TT2024、フランス・中国) 『The Sleepless Girl』
HATAKEYAMA Kana (監督、TT2024、日本) 『瞳の奥には (Dollyamory)』
KOIDE Daiju (プロデューサー、TT2024、日本) 『What's Love Got to Do With It?』
Lkhagvadulam PUREV-OCHIR (監督、TT2024、モンゴル) 『The Vision of Lonely Mountains』
MAI Huyền Chi (監督、TT2024、ベトナム) 『The River Knows Our Names』
YAN Haohao (監督、TT2024、中国) 『Naked in Glendale』

B) インターナショナル・プロモーション・ファンド

※完成間近の作品の広報などの費用のため、上限 50 万円の支援を行うプログラム

OTA Singo (監督、TT2013、日本) 『沼影市民プール (Numakage Public Pool)』
LE Binh Giang (監督、TT2016、ベトナム) 『404NOTFOUND』
Timothy YEUNG (監督、TT2016、香港、カナダ) 『FINCH & MIDLAND』
Nguyễn HOÀNG ĐIỆP (監督、TT2023、ベトナム) 『1982』

* 修了年氏名 (監督／プロデューサー、タレンツ・トーキョー修了年、国名/地域名) 『企画名』

* 氏名はタレンツ・トーキョー修了年及び氏名アルファベット順で表示しています。

* 国名／地域名は出身国もしくは現在の活動拠点です。

選考委員会は、池田高明（NHK エンタープライズ）、市山尚三（タレンツ・トーキョー実行委員長/東京フィルメックス理事長）、神谷直希（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックスプログラムディレクター）により構成されています。

一次選考には、市山尚三（タレンツ・トーキョー実行委員長/東京フィルメックス理事長）、松本元子（タレンツ・トーキョー）、曹瀟瀟（タレンツ・トーキョー）が参加しました。

（順不同、敬称略）



別紙4 「タレンツ・トーキョー2025」プレイベント 修了生作品特別上映会・開催概要

名称：「タレンツ・トーキョー2025」プレイベント・修了生作品特別上映会

日程：2025年11月8日（土）、9日（日）

会場：東京都写真美術館ホール

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

タレンツ・トーキョー実行委員会

チケット：無料

（要事前申し込み、詳細は後日公式ウェブサイトにてお知らせします。）

| 上映作品 |

『ルノワール』(2025)



© 2025 「RENOIR」 製作委員会 / International Partners

日本、フランス、シンガポール、フィリピン、インドネシア、カタール | 2025 | 122 分 |

監督/脚本：早川千絵 |

1980 年代のある夏。11 歳のフキ（鈴木唯）は、両親と 3 人で郊外の家で暮らしている。父の圭司（リリー・フランキー）は闘病中のため入院を繰り返し、母の詩子（石田ひかり）は家事と仕事に追われる日々。そんなふたりのもとで、フキは得意の想像力を膨らませながら、自由気ままな日々を過ごしていた。

監督/脚本：早川千絵（TT2014 修了生）

短編『ナイアガラ』が 2014 年第 67 回カンヌ国際映画祭シネフォ
ンダシオン部門入選、ぴあフィルムフェスティバル グランプリ受
賞。2018 年、是枝裕和監督総合監修のオムニバス映画『十年 Ten
Years Japan』の一編の監督・脚本を手がける。その短編から物語を
再構築した初の長編映画『PLAN 75』(22)で、第 75 回カンヌ国際映
画祭カメラドール(新人監督)特別賞を受賞し、輝かしい才能が世界
から注目されている。



写真：西山 勲

上映スケジュール

11 月 8 日（土）10:20～上映

*上映後、監督トークあり・ゲスト：是枝裕和監督・司会：市山尚三

11 月 9 日（日）15:45～上映

『Cu Li Never Cries』 (2024)

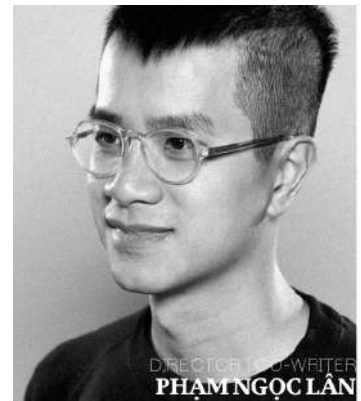


ベトナム、シンガポール、フランス、フィリピン、ノルウェー | 2024 | 92 分 |
監督/共同脚本：PHẠM Ngọc Lâm |

ある日、主人公のもとに、長らく疎遠だった元夫の訃報が届く。彼の遺灰とともに、一匹のスローロリスを託される。一方、姪は結婚を控えながらも、自らの未来に迷いを抱えている。過去と現在、記憶と家族をめぐる描かれる、二人の女性の物語。

監督/共同脚本： ファム・ゴック・ラン (TT2017 修了生)

ハノイ生まれ。都市計画を専攻したのち、独学で映画制作を学ぶ。短編作品に『The Story of Ones』 (ヴィジョン・デュ・レール 2012)、『Another City』 (ベルリン国際映画祭 66 回)、『Blessed Land』 (同 69 回)、『The Unseen River』 (ロカルノ国際映画祭 74 回、サンダンス映画祭 2021) などがある。『Cu Li Never Cries』は長編初監督作となる。



上映スケジュール

11 月 8 日 (土) 13:35～上映

11 月 9 日 (日) 13:15 ～上映 *上映後、監督トークあり

『ピアス 刺心』(2024)



シンガポール、台湾、ポーランド | 2024 | 106 分 | 監督：ネリシア・ロウ |

フェンシングの試合中に対戦相手を刺殺、少年刑務所から 7 年ぶりに出所した兄ジーハンと、疎遠になっていた弟ジージェが再会する。「事故だ」という兄の言葉を信じて、ジーハンを警戒する母の目を盗み、兄からフェンシングの指導を受ける。ジージェ自身も気づかなかった友人への甘酸っぱい想いを後押ししてもらい、ふたりは兄弟の時間を取り戻していく。しかし、幼き日の溺れた記憶がよぎる。あの時、なぜ兄はすぐに手を差し伸べなかったのか。疑念が深まるなか、悪夢のような事件が起こる。

監督/脚本：ネリシア・ロウ (TT2020 修了生)

シンガポールで生まれ育ち、5 年間にわたりシンガポールのフェンシング国家代表として活躍する。2010 年の広州アジア競技大会を最後に現役を引退し、子どもの頃からの夢だった映画作りの道へ進む。2018 年、ニューヨークのコロンビア大学で映画監督専攻の MFA (芸術学修士) を取得。短編 2 作目の『Freeze』は、2016 年のクレルモン＝フェラン国際短編映画祭でプレミアされ、その後、金馬奨 (台湾)、釜山国際短編映画祭 (韓国)、ブリュッセル国際短編映画祭 (ベルギー)、オーデンセ国際映画祭 (デンマーク)、シンガポール国際映画祭をはじめ世界 70 以上の映画祭で上映された。



上映スケジュール

11 月 8 日 (土) 15:55～上映

11 月 9 日 (日) 10:20～上映 *上映後、監督トークあり